

# かわいいものに対する反応の個人差に関する研究

野間 悠希奈

私たちは、赤ちゃんや小さな動物などに出会った時、かわいいと感じる。入戸野(2009, 2013)は、この反応を、害がなく緊張を感じさせず、見守りたい、一緒にいたいと思うポジティブな感情と捉え、「かわいい」感情と定義した。「かわいい」と感じた時の反応について、他にも、Aragon et al. (2015)は、「キュートアグレッション」という攻撃的表現(遊び半分のうなり声、ぎゅっと握る、噛む、つまむなど)を提案している。しかし、かわいいものに対する反応を包括的に測る測定尺度がないため、「かわいい」感情の個人差について検討することが難しい。本研究は、かわいいものに対する反応を測定する自記式質問紙(多次元かわいい反応質問紙)を作ることを目的とした。2つの研究により、質問紙の項目を決定し、その因子構造と信頼性、妥当性を検証した。

研究1では、ブレンストーミングによって作成した43項目を用いた、オンライン調査を行った。参加者(N=495)は、かわいいと感じる対象を思い浮かべたあとに、質問紙に6件法で答えた。探索的因子分析によって4因子20項目を抽出した。それぞれの因子は、「ポジティブ感情」「親和行動」「制御不能性」「キュートアグレッション」と名付けることができた。「ポジティブ感情」は、かわいい刺激に対する喜び、やさしさ、柔和といった反応を示す。「親和行動」は、刺激への物理的接近、子育て、ケア行動の欲求を示す。「制御不能性」は、感情の制御ができなくなる状態を示す。「キュートアグレッション」は、刺激に対して攻撃的な表現(つねる、叩くなど)をしたくなる衝動を示す。

研究2では、その20項目の一部を修正した上で、既存のパーソナリティ質問紙とともに、オンライン調査で回答を求めた。参加者(N=752)は、20代から60代までの男女(各カテゴリ100名)の募集を行い、年齢と性別の偏りを排除した。まず、確証的因子分析により、研究1で得られた4因子構造を確認した。同時に測定するパーソナリティ質問紙は、かわいい反応質問紙(CR15, 15項目, 6件法)、日本語版子育て動機づけ尺度(JPCM, 8項目, 5件法)、日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J, 10項目, 7件法)、日本語版対人反応性指標(IRI-J, 28項目, 5件法)、短縮版多次元衝動的行動尺度日本語版(SUPPS-P-J, 20項目, 4件法)であった。それぞれの得点と4因子の得点との相関分析を実施したところ、予想される方向の相関がみられた。かわいいと感じる程度(CR15)と子育て動機づけ(JPCM)、共感性(IRI-J)は、4因子とおおよそ正の相関が認められた。他方、ビッグファイブ特性(TIPI-J)については、ポジティブ感情と親和行動は協調性と正の相関を示し、制御不能性とキュートアグレッションは協調性や勤勉性と負の相関を示した。衝動性(SUPPS-P-J)については、制御不能性とキュートアグレッションはネガティブ・アージェンシーとポジティブ・アージェンシー(ネガティブまたはポジティブな感情に応じて早まった行動をとる傾向)と正の相関があった。また、キュートアグレッションは、特に刺激希求性と正の相関が認められた。

本研究により、かわいいものに対する反応パターンには個人差があり、温かくやさしい気持ちといったポジティブな側面だけでなく、衝動性や攻撃性といったネガティブな側面を含む場合もあることが確認できた。今回作成した多次元かわいい反応質問紙は、20項目と比較的手軽に実施できるため、今後の「かわいい」に関する研究を行う上で有用なツールになると期待される。(基礎心理学)